

「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等(平成21年8月分)について

(8月31日現在)

(1) 問い合わせ件数

平成21年8月1日～平成21年8月31日

58件

(2) 内訳

① 食品安全委員会関係	16 件
委員会	3 件
広報・ホームページ・メールマガジン	11 件
リスクコミュニケーション	2 件
② 食品の安全性関係(注1)	8 件
化学物質系	7 件
新開発食品等	1 件
③ 食品一般関係(注2)	31 件
化学物質系	5 件
生物系	3 件
新開発食品等	3 件
衛生関係	16 件
食品表示関係	2 件
その他	2 件
④ その他	3 件

注1) 食品の健康影響評価に関すること、ファクトシートの内容に関すること等、主として食品安全委員会の行う科学的評価に関係する事項

注2) 食品一般に関する事項及び表示や衛生管理等、主としてリスク管理に関係する事項

(参 考)

食の安全ダイヤルへの質問等のうち主なもの
(平成20年9月～平成21年8月)

		こんにゃく入りゼリー関連	メラミン (中国製乳製品等汚染)関連	事故米穀不正規流通関連	体細胞クローン牛等関連	新型インフルエンザ関連	小計	その他	合計
平成20年	9月	1	19	67	0	0	87	84	171
	10月	42	30	13	0	0	85	124	209
	11月	0	8	39	0	0	47	72	119
	12月	1	3	2	0	0	6	57	63
平成21年	1月	0	0	1	5	0	6	53	59
	2月	0	0	0	3	0	3	57	60
	3月	0	0	0	10	0	10	61	71
	4月	0	0	0	5	8	13	70	83
	5月	0	1	0	5	15	21	50	71
	6月	0	0	0	1	0	1	51	52
	7月	0	0	0	0	0	0	51	51
	8月	0	0	0	1	0	1	57	58
	合 計	44	61	122	30	23	280	787	1067

(3) 問い合わせの多い質問等

【委員会関係】

Q 食品安全委員会で行われている「食品健康影響評価技術研究」の位置づけはどのようなものですか。また、この研究結果はどのように活用されているのでしょうか。

A 食品安全委員会では、科学を基本とする食品健康影響評価(リスク評価)の推進に必要な、リスク評価手法の開発などを目的に技術研究を、平成17年度より行っています。

食品安全委員会がリスク評価に必要な研究領域(分野)を設定し、それに対応した研究課題を募集する提案公募型の研究事業で、大学や研究機関の研究者を対象に最長3年間研究費を支援しています。

採択では、課題が科学的に妥当であるかはもちろん、特に「得られた成果がリスク評価に活用できるか」を重視しており、得られた研究結果のリスク評価への活用が目的です。

また、研究の成果を普及するための成果発表会を開催しており、平成21年度は、平成20年度に終了した研究課題のうち3課題について、それぞれの主任研究者本人から発表が行われ、一般参加者を含めた聴衆と質疑応答を行いました。

年度ごとの「食品健康影響評価技術研究」の課題や研究結果は食品安全委員会のホームページで公表されています。

<http://www.fsc.go.jp/senmon/gijyutu/index.html>

参考：平成21年度の新規課題として、

- ・かび毒・きのこ毒の発生要因を考慮に入れたリスク評価方法の開発
 - ・メラミンによる腎不全の発生機序の解明と健康影響評価手法の確立
 - ・ビスフェノールAによる神経発達毒性の新たな評価手法の開発
- など、6件を採択。